第79回麻布獣医学会　一般講演9

乳牛の幽門部通過障害を伴った第四胃変位の考察

橋本　憲庸[1]，松下　卓見[1]，木俣　俊治[1]，杉山　仁志[1]，上條　哲典[1]，
大西　一寿[2]，森谷　浩明[3]，草深　芳夫[4]

[1]十勝NOSAI更別家畜診療所，[2]十勝NOSAI西部家畜診療センター
[3]十勝NOSAI本所家畜部指導課，[4]十勝NOSAI南部家畜診療センター

【はじめに】

近年，酪農家においては出荷乳量増加を目的に飼料給与形態も変化してきている。最近の臨床現場において第四胃食滞の前段階とも思われる第四胃幽門部通過障害を伴った第四胃変位に多数遭遇した。その疾病減少を目的に検討をおこなったので概要を報告する。

【症例】

平成14年4月から平成16年6月末までの中札内村における第四胃変位整復手術時に幽門部通過障害があった症例（右側横臥傍正中切開時に四胃幽門部に小石，砂の存在が明らかで四胃切開を行ったもの，また手拳大2個以上で内容物充満が確認され，幽門通過困難と判断し同様に切開にて異物を除去したもの）について発生の状況とその対策を検討した。

【成績】

原因として乾乳期の粗飼料不足，エネルギー不足，移行期～泌乳初期の有効繊維不足，ならびに油脂過剰による消化障害。サイレージ作製時の異物混入，乾乳牛舎の過密によるストレス等が考えられた。

対策として

1）特に本症の発生が多かった2農場について十勝NOSAI牛群検診車でMPTを実施，同時にNRC飼養標準に基づきの飼料設計の見直しをした。
2）バンカーサイレージ作製時に砂，小石が混入しない様細心の注意を要請した。
3）パドックの利用で乾乳牛舎の過密を解消した。
4）早期確定診断のため分娩後食欲不振の個体は血液検査を行い低CI血症が認められた場合は，本症を疑い早期に手術を行うよう診療所内で検討した。

【考察】

第四胃変位は年間を通して4月から7月の発生が特に多いことがわかった。中でも幽門部の通過障害を伴った症例は明らかに春から初夏にかけて，粗飼料入れ替えの時期に集中する傾向にあった。通過障害のある第四胃変位は，Ping Soundの聴取が明瞭でないものが多く，また牛は少量づつなら採食を続けるため確定診断が難しい。

診断に日数を要したものでは治癒に時間がかかり，廃用または死の転帰をとるものも散見された。上記対策はいずれも進行形で今後も他農場についても同様のアプローチをすることで本症のみならず第四胃変位全体の減少を目的に指導していきたい。第四胃変位は，飼養形態の変化に伴い多様性を呈してきているということをあらためて認識した。